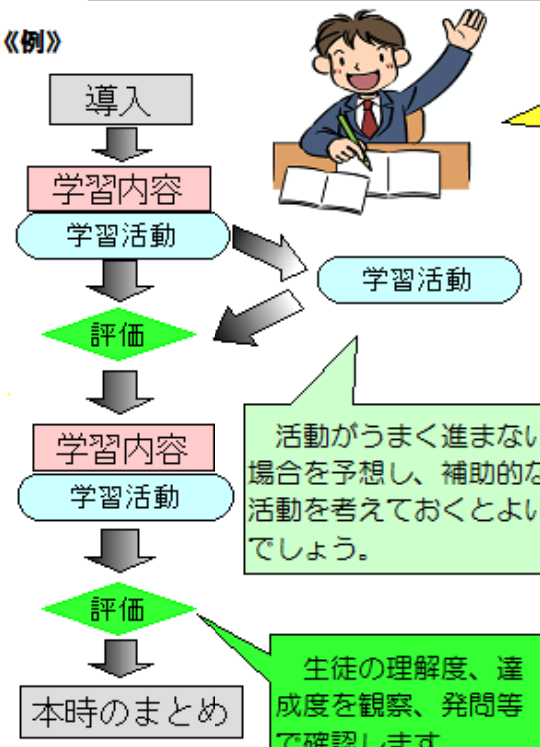



## 2-(2) ①講義中心の授業シートの書き方

◎授業者〔職名・氏名〕 ◎実施日・校時〔平成 年 月 日( )・校時〕 ◎授業クラス〔〇年〇組：生徒数〇名〕 ◎実施場所〔〇年〇組〕

学習の展開（内容、活動）	授業の手だて・工夫（指導上の留意点）			授業の振り返り													
授業目標	全体	A 層	C 層	手だての有効性	〔手だて・工夫など〕												
<p><b>学習の展開</b></p> <p>本時の指導において生徒に達成させたい目標を記入します。できる限り具体的に書くことが大切です。</p> <p>学習の流れをフローチャート形式で記入します。学習内容と生徒の学習活動を区別して記入するとよいでしょう。</p> <p>《例》</p>  <p>活動がうまく進まない場合を予想し、補助的な活動を考えておくといよいでしょう。</p> <p>生徒の理解度、達成度を観察、発問等で確認します。</p>	<p>学習活動は生徒を主語にして書きます。</p> <p>生徒の学習活動に対して、その活動を促進するための手だてを記入します。学習の展開欄に記入した「学習活動」と横並びで記入します。</p>	<p>習熟度の高い生徒や理解の速い生徒に対して更に高い目標に挑戦しようという意欲をかき立てる活動や発問を記入します。</p>	<p>習熟度の低い生徒や理解の遅れがちな生徒が目標を達成できるようにするための活動や発問を記入します。</p>	<p>左記の「授業の手だて・工夫」欄に記入した手だてを記入します。</p> <p>本時の授業を振り返って、学習の展開、手だて、気付いたことなどを記入します「学習の展開」「授業の手だて」の欄と横並びで記入しましょう。</p>	<p>①・・・の工夫</p> <table border="1" data-bbox="1859 446 2105 510"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>②・・・の工夫</p> <table border="1" data-bbox="1859 558 2105 622"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>③・・・の工夫</p> <table border="1" data-bbox="1859 670 2105 734"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>手だての有効性について、1～4の数値を○で囲みます。</p> <p>↓</p> <p>次の授業の改善など</p> <p>手だてについて、良かった点や改善すべき点を記入し、次に生かせるようにしておきます。</p>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
1	2	3	4														
1	2	3	4														
1	2	3	4														
<p>手だては教師を主語にして書きます。</p>																	

## 2-(2) ②講義中心の授業シートの振り返り記入例

◎授業者〔職名・氏名〕 ◎実施日・校時〔平成 年 月 日( )・校時〕 ◎授業クラス〔〇年〇組：生徒数〇名〕 ◎実施場所〔〇年〇組〕

学習の展開 (内容、活動)	授業の手だて・工夫 (指導上の留意点)			授業の振り返り	
	全体	A層	C層	手だての有効性	〔手だて・工夫など〕
<p>〔授業目標 (ねらい)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品の場面や状況を理解する。</li> <li>作品の場面や状況にふさわしい朗読を行うことができるようになる。</li> </ul> <p>導入 前時の復習。</p> <p>↓</p> <p>内容 (ア) 作品全体の構成把握。</p> <p>全体を意味段落に分ける。</p> <p>書き手の心情変化を読み取る。</p> <p>↓</p> <p>内容 (イ) 作品の場面や状況を踏まえた朗読。</p> <p>朗読を行い、相互に評価をする。</p> <p>俳優の朗読CDを鑑賞する。</p> <p>↓</p> <p>本時のまとめ 書き手の心情の変化をうまく朗読で表現できたかを振り返らせる。</p>	<p>赤い文字で振り返りを記入しています。</p> <p>○作者のいる場所や時間の推移を表す表現を抜き出し、板書させる。</p> <p>○悲しみから「いのり」へと変化してゆくことを読み取らせる。</p> <p>○ペアを作り、互いに朗読を聞かせ合った後、朗読のどこがよく、どこを改善した方がよいかを相互で指摘しあう。</p> <p>○朗読CDの鑑賞は朗読のあくまで一例に過ぎないことを確認しておく。</p>	<p>○作者の行動を要約し段落分けに利用させる。</p> <p>・「作者は、今、何をしながら妹のことを想っているか」という発問に変更。</p>	<p>○場所や時間を示すと思われる箇所を抜き出すように伝える。</p> <p>○妹の言葉のリフレインに注意させ、構成の手がかりにさせる。</p> <p>○「いのり」という言葉に注意させる。</p>	<p>生徒に活動をさせることを通して、生徒の意欲を高めることができると感じた。</p> <p>授業後の気づきを記入しています。</p> <p>手だて (ペア活動) についての振り返りを記入しています。</p> <p>朗読にペア活動を取り入れたのは有効であった。</p> <p>朗読評価表を配り、コメントを記入して相手に渡すようにするとよい。</p> <p>本時の学習を終えて、次の授業で手だてを考えました。</p>	<p>①発問の工夫 1 2 3 4</p> <p>②板書の工夫 1 2 3 4</p> <p>③ペア活動の工夫 1 2 3 4</p> <p>④朗読CDの工夫 1 2 3 4</p> <p>↓</p> <p>次の授業の改善など</p> <p>・詩のイメージを音声言語で表現するという活動は効果的であった。 次の時間は詩のイメージをイラストに描いて、視覚的に表現するという活動を取り入れたい。</p>

## 2-(2) ③実習中心の授業シートの作成手順

a その時間において生徒に達成させたい授業目標を整理します。

### 授業目標の例

- ・精度向上の意識を持つ
- ・うっかりミスをなくすための仕組みづくりを行う
- ・作業効率の向上のためにどうすれば良いかを考える
- ・安全に器具の操作ができる
- ・操作手順の妥当性を理解する
- ・高い合理性や客観性を備えた分析や考察を書く



b 授業目標が達成しやすくなるように、教師が生徒全体に対して行う工夫を「全体への手だて」とします。

### 手だての例

- ・失敗しやすい場所に対し、予め注意を喚起する
- ・生徒が注意しなくても失敗しないような工夫を行う
- ・生徒同士で話し合わせたり、お互いの考えを記入したメモを交換させたりする

生徒の能力や内容の特性によって、上記の手だてが思惑どおりに機能しない場合が考えられます。その場合の工夫を「C層への手だて」とします。

生徒の能力や内容の特性によって、他の生徒と比べて著しく高い目標を設定できる場合があります。この状態へと導くための手だてを「A層への手だて」とします。

ただし、あまりたくさんの観点を授業に盛り込まないようにしてください。手だての有効性が検証できなくなります。

c 手だての有効性を見取る（検証する）ために、次の事を授業前に決めておいてください。可能な限り具体的に記述しておくことが必要です。

- ・授業中・授業後、生徒がどんな姿であって欲しいか

授業後、これらが見られたどうかを想起し、手だての有効性を吟味して記入します。有効な手だてを明文化することは、今後の自分の授業を考える上で大切な財産になります。また、同じ教科の他の教員に伝えることによって教師集団のスキルアップにつながります。

d その反面、手だてが有効ではなかった場合には、次の事を行いましょ

- ・どうしたら良かったのかを考えて、この授業シートへ朱書き訂正を行う
- ・今後、どう補えば良いのかを考え、次の授業の授業シートを作成する

この作業を行うことが授業マネジメントになります。

## 2-(2) ④ 実習中心の授業シートの振り返り記入例

◎授業者 [職名・氏名] ◎実施日・校時 [平成 ○○年○月○日 (○) ・ ○校時] ◎授業クラス [○年○組:生徒数]

学習の展開 (内容、活動)	授業の手だて	振り返り
<p>ニワトリの脳が脳大・間脳・中脳・小脳・延髄からなることを理解する</p>	<p>全体</p>	<p>b 授業のねらいが達成しやすくなるように、生徒に行う手だてを記入します。生徒の能力や内容の特性に応じて書き分けます。</p>
<p>①教師の説明を聞き ②室温と湿度を測</p>	<p>○実験材料 (ニワトリ) を丁寧に扱うよう指示する。 ○班員全員で協力するよう指示する。</p>	<p>c 手だての有効性を判断します。 * 見やすいように横に並べて記入します。</p>
<p>a その時間において生徒に達成させたいねらいを記します。</p> <p>* 以下について教師の演示を見て作業を行う。 ③ニワトリの目、耳、鼻、舌、とさかの位置や形態を観察する。 ④頭頂骨をはぎ取り、大脳を露出させる。 ⑤眼球と視神経を確認する。</p>	<p>○大脳を傷つけないよう、器具を使わず、直接手で操作させる。 ○大脳と眼球をつなぐ視神経を切断してしまわないよう説明を行う。教師の手元が分かりやすいように大型テレビでモニターする。</p>	<p>○班員の作業分担と進捗管理に配慮させる。 ○視神経を付けたまま脳全体を取り出せるよう努力させる。</p>
<p>* 以下について教師の演示を見て作業を行う。 ⑥脳全体を取り出す。 ⑦取り出した脳の上面と下面をスケッチする。 ⑧脳を左右の2つに分離し、きれいな方を側面図としてスケッチする。</p>	<p>○脳のしわなど、細部までスケッチするよう指示する。</p>	<p>○視神経が切れた場合でも、脳全体が取り出せるよう努力させる。</p>
<p>⑨各部の名称をスケッチに付記する。</p>	<p>○各部の名称について説明する際、教師や生徒の試料を大型テレビで提示する。</p>	<p>○うまく試料が取り出せなかった場合は、他班の試料を参考にする。</p>
<p>⑩実験器具を片づける。 ⑪実験プリントの整理を行う。</p>		<p>○視神経が切れた場合でも、脳全体が取り出せるよう努力させる。</p>

c 手だての有効性を判断します。  
\* 見やすいように横に並べて記入します。

☆率先して班員に声かけができる者ばかりではなく、教員の声かけが必要な場合があった。  
☆視神経が切れやすく、できた班は1班だけだった。  
☆頭頂骨をはぎ取ったときに、大脳がくっついて取れてしまう班があり、事前の注意が必要だと感じた。

☆試料取り出し時に失敗していてグチャグチャにしまった班は他班に見せてもらおうしかなかった。

実験室	
振り返り	
〔手だて・工夫など〕	
① 説明の内容	1 2 3 4
② 大型テレビモニター	1 2 3 4
③ 実験中のサポート	1 2 3 4
④ 試料の選択	1 2 3 4
d どうしたら良かったのか、次の授業ではどう補えば良いのかを記入します。	
①の説明時に大型テレビで色々な失敗例を示せば良かった。試料が破損してしまい、スケッチができなかった者がいたので、次の授業では上手にできた者のスケッチをクラスへ拡大提示し、各部の名称を確認させることから始めようと思う。	